

熊本中央高等学校 令和6年度年度 学校評価表

1 学校教育目標
自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。
(1) 学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。
(2) 自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。
(3) 明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。

2 本年度の重点目標
学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくり、部活動や実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び、学ぶ楽しさ、役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持つ喜び」を体験させることを教育の指針とする。
(1) 学力の向上 (2) 生徒指導と心の教育の推進 (3) 進路保障 (4) 部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進

3 自己評価総括表
評価基準 A:できている B:概ねできている C:できていない
評価項目: 大項目, 小項目
評価の観点: 学級経営への教育方針の反映, 保護者との連携の促進, 教育環境の整備点検, 危険箇所等の早期改善, 生徒の理解度の把握, 学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格, 進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の要請, 資格取得の推進, 教育改革への対応, 一人ひとりの進路目標達成, 交通マナー向上, 登下校時の交通事故防止, 校則に対する自主的な規律意識の有無, いじめの実態把握, いじめの早期発見, 指導体制の整備, アンケートを実施し中学生、保護者の反応をみる
具体的目標: 基本的な生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実をはかる, 学校からの情報発信に努め、保護者との連携と情報共有を図る, ICT関連の環境整備に努め、生徒の充実した学びをサポートする, 教室ならびに各施設の安全点検と補修及び、周辺環境の整備充実を図る, 授業に「熱心に取り組んでいる」生徒の割合と、授業に対して「満足」と感じている生徒の割合がそれぞれ80%以上となることを目指す, 漢検、文検、数検、英検や各種商業系検定などの取得を目標の一つとし、朝学・夕学の時間を使い、積み重ねの学習習慣を身に付けさせる希望者への無償課外や個別指導への取り組みに努める, 進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める, オープンキャンパス及び企業見学の参加率100%を目標とする, 教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する, 社会人として対応できる学力とマナーの向上, 登下校時の交通マナーの徹底, 駐輪時の2重ロックの徹底, 校則に対する意識を高め、生徒自らが気を付けることで、髪型服装に関する指導を減少させる, 生徒指導事案で処分される生徒を減らし、賞罰委員会の回数を減少させる, SNSを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる, 校内からいじめをなくす, 生徒に関する情報を職員間で共有し、生徒の変化に対応する, いじめ事案に関しては、生徒の安心安全を考慮した上で、問題解決に取り組む, 各イベント(ホテル日航の説明会、オープンスクール、入試説明会等)に参加した中学生、保護者に本校の魅力や学習の取り組みをしっかりと伝える, オープンスクールでは参加者500名を目標とする
具体的方策: ①生徒一人一人の個性を把握し、学習面・生活面でサポートし、意欲向上に努める, ②2者面談、3者面談、学級懇談会を通じて家庭と学校での生徒の現状把握に努める, ③classiの活用により生徒・保護者との連絡を密に行い情報の共有に努める, ④classiやホームページのブログ・Instagramなどを活用し保護者への情報の発信に努める, ①早期に全教室に黒板用プロジェクターを完備し授業の効率化に寄与する, ②適宜、施設を点検し、危険箇所の修理・改善を実施する, ①年2回教務アンケートを実施することで生徒たちの授業に対する取り組みと自己評価、ならびに教師への評価を確認し、その結果をそれぞれ個々の授業にフィードバックし改善に努める, ②ICT機器の活用など授業の工夫に努め、知識・技能だけでなく思考・判断を促す活動を取り入れる, 全学年でユメチャレ(英単語)・マスチャレ(計算)による基礎固めの取り組みをはじめ、漢検・文章検定の一斉受験や、総合ビジネス科・国語科・数学科・外国語科を中心に、徹底した個別指導で意欲のある生徒達に応える, ①LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組む, ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携する, ③e-learning(classi)の活用, ④進路相談、個別面談の充実をはかる, ⑤外部講師による面接指導を実施する, ⑥資格取得による入試制度の活用, ⑦総合探究コースと総合ビジネス科ではインターシップを通して職業体験を実施する, ⑧各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する, ⑨資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験を導入する, ①オープンキャンパス等への積極的参加, ②入試傾向の分析と対策の充実, ③課外、模試、学習合宿等の実施, ④校内外の進路ガイダンスへの参加, ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実, ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む, ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る, ①登下校時において学校周辺では一列励行を心掛けさせるため、校舎前での交通指導を行う, ②校舎間の公道を横断する際の注意喚起を行う, ③2重ロックの点検を定期的実施する, ①学年集会や髪型服装検査の際に、ルールを守ることの意義や必要性を話し、生徒の規範意識を高める, ②「怒られるから」という考えから「自分のために気を付ける」という意識に変わるような日常の声かけを心掛ける, ③SNSや薬物防止などの講話を実施し、生徒の防犯意識を高める, ①「いじめをしない、させない、許さない」という、いじめに対する学校の方針を徹底し、それらを生徒に周知する機会を設ける, ②授業や掃除、HRなど普段のクラス活動の中で、生徒同士がつながるような取り組みを実施する, ①日頃から担任、学年主任、教育相談室、養護教諭、スクールカウンセラー、生徒部で連携を図る, ②いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図る, ③生徒の生活環境、背景を理解し、普段から生徒の様子に気を配る, ①オープンスクールのチラシ配りを各中学校に可能な限り手渡しし、その際に高校説明会への参加希望を伝える, ②説明会及びオープンスクールでは、本校の魅力がしっかりと伝わるよう、各担当の先生方と内容の打合せ、当日の流れを細かく確認し、準備する

	来年度の入学者の確保	志願者数、受験者数	本校の魅力、方針を理解し、入学後何を学びどいった活動に励みたいか明確な目標を持った生徒を多く受け入れる 入学者数300名が目標。	①高校説明会及びオープンスクールで魅力や方針を周知させる ②本校受験を希望する生徒に専願生で受験させるよう呼びかける	B	各担当の先生方のお陰で学奨・専願の志願者数が500名を超え、中学校の説明会やオープンスクールの効果が大きかったと思う。また、受験者の学力のレベルも上り、面接においても入学後の目標をしっかりと持っている印象なので非常に楽しみである。入学者数も300名近くは行きそうである。来年度も気を抜かずアピールしていきたい。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える	①生徒が利用しやすいように蔵書のレイアウトを変更する ②生徒のニーズに応じた書籍を仕入れる。 ③図書委員と共に定期的に企画を考え、図書館に興味を持ってもらえるよう情報発信を行う	B	本年度8月より司書に常駐してもらえるようになったため、蔵書のレイアウトの変更や生徒のニーズに応じた書籍の購入が進んだ。図書館利用の促進に向けた情報発信までには至らなかったの、来年度以降は情報発信にも力を入れていきたい。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる	蔵書点検を行い、必要に応じて古い資料を廃棄し、最新の資料を購入するようになる	A	蔵書点検を行い、古い資料の廃棄の準備を行うことができた。今後は予算に応じて定期的に最新の資料を購入するようしていきたい。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の真の解決を目指し、人権教育及び人権啓発を図っていく。その為に、人権問題を正しく理解し一人一人が差別をなくしていく実践力を構築していく。	誰もが安心して教育を受けることができる環境、雰囲気構築するための校内研修の充実。	B	就学困難な状態になりつつある生徒をいかに見つけ出し、どのように対応するか、SSWの活動にどのようにつなげていくかをテーマに研修を行った。また、性別に違和感を感じる生徒への対応への協議も行った。今後の課題は、その他の人権問題に関する研修の充実と、人権問題に対応するための学校のシステムの再構築。
	生徒個々の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の真の解決を目指し、人権教育及び人権啓発を図っていく。その為に、人権問題を正しく理解し一人一人が差別をなくしていく実践力を構築していく。	学年ごとに、いじめ・差別する側の心理を理解するための研修を行い、自らがいじめ・差別をする側に立たないように気をつける力を養う	B	いじめや差別をする側に立たないために、自分自身、特に自分自身の心理状態を客観的に理解することができる能力を身につけることを目標に研修を行った。生徒に概ね好評で、ある程度の意識付けはできたものと思われる。課題は生徒に分かりやすい、心に残る研修を行うための内容の充実。
学校保健	心身の健康に興味・関心をもち、生涯にわたって自他ともに健康で安全な生活を主体的に送ることのできる生徒を育成する	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為の実践力育成	生徒が自らの健康に関心をもち、自己管理能力を養うことができる機会を設ける 教職員の健康を守るために必要な情報提供や健康相談を行う	①保健調査票や健康診断、来室記録などを基に学校の健康課題を把握し、これに基づき個別・集団指導を実施する ②保健室来室時の保健指導で簡単な応急処置や疾病の予防行動について指導を行う ③生徒や保護者、職員に対し、朝礼やCrassy、掲示物等を用いて保健に関連した最新の情報を発信する ④生徒保健委員会活動を通し、保健に関する情報発信の機会を設ける ⑤職員による健康に留意し、健康診断、日常の健康相談やストレスチェックを実施する ⑥職員救命救急講習を実施し、緊急時の対応能力の向上を図る	B	学校の健康課題として生活習慣の乱れによる不眠や自律神経失調症を持つ生徒が多い傾向がわかった。これに対し来室時は丁寧に問診を行い自立に繋がる指導を行った。保健に関する情報発信については保健委員会活動での実施には至らなかったが、救急救命講習や修学旅行といった保健関連行事の機会が発信することができた。10月に健康診断、11月にストレスチェックを実施し、事後措置をとった。その結果、就業上留意すべき事項や面談が必要な職員を抽出し、就業上の不安を軽減した。また、職員にも保健室を利用してもらえるよう呼びかけ、必要な休養がとれる居場所づくりに繋げた。課題は保健室に來ない職員・生徒のケア不足である。今後は担任や教科主任などと連携し、情報収集を行う必要がある。
	学校環境を整備し、その保全と美化意識の向上を図る	学校環境衛生の管理及び環境美化の推進	生徒の健康を保護し、心身の発育発達と健康の保持増進を図る 学習環境・職場環境を改善し、学習能率や労働生産性の向上を図る	①学校薬剤師の指導のもと、環境衛生検査や環境整備を実施し、学習・職場環境の改善を図る ②職員による掃除用具の点検及び整備、掃除方法の指導を行う ③生徒の身体・及び衣服の清潔保持を図る為、整備委員会等を通じて清潔指導を行う	B	学校薬剤師と連携し、来校時に環境衛生検査を実施した。指導を受けた点はすぐに反映し、環境改善に努めることができた。掃除用具については、保健部が中心となり点検や整備、掃除方法の指導を行った。課題は、掃除の清掃不備がある箇所(主にトイレ)があり、掃除監督の指導や掃除中の巡回など実施する必要がある。今年度、整美委員会と活動できなかった為、来年度は連携をとっていきたい。

4. 学校関係者評価

学校長より、全生徒アンケート、全保護者アンケート、教職員の自己評価アンケート、各部署からの評価アンケートをもとに、今年度の報告をされる。(基本的な生活習慣の確立) ・学校長：基本的な生活習慣に関しては大まかには出来ている。問題行動も以前と比べると減少傾向。その一方で、メンタルが弱い生徒、人間関係が作れない生徒が増えているように感じる。集団づくりが必要だと考える。評価委員：中央高校に携わって14年。当時からすると派手さがなくなりずいぶん変わった。精神面や自己主張が弱くなったと思うがそれは中央高校だけではない。今までの教育環境では生じがちな。本年度からの新体制では高校の方針や考え方に変化があり、より今の時代にマッチした形になってきていると感じる。

(学校からの情報発信) ・学校長：情報発信のツールとしての学校のHPがあるが、古いので刷新する準備中。従来の常識にとらわれない形を作りたい。評価委員：インスタグラム等を活用してはどうか。新しいHPに期待したい。評価委員：情報としてHPはありがたい。学校の出来事や校長先生の考え方がよくわかる。行きたい学校を考えている親にもありがたい。

(学力向上・進路指導) ・学校長：わかる授業をするのはあたり前で、まだまだだと思う。学校に来て授業を受ける、面白くすることが必要。検定取得に関しては増えている。評価委員：中央高校の先生たちをスキルアップさせている。学校長：進路指導に関しては競争がある大学とない大学がある。2030年問題を見据えて、進学と就職だけではなく進路指導を考えて行かないといけないと思う。(生徒指導)

・学校長：ヘルメットの件は後援会からも提案が出ているがまだ、検討中。各委員：県立高校は義務化されるが、まだ検討の余地がある。シートベルトのように国の責任で法律など徹底しないと根付くのが難しいのでは。学校長：校則に関しては一方的な指導ではなくそれぞれの意見を聞いてやっていく。校則を守らせることは大事だが、「何のために守るのか」を生徒が考えと、「自分たちが変えていく」事が必要。ただ、生徒総会をしても生徒から多様な意見があり、時間はかかりそうだ。「言ったから従え」という考えではない。評価委員：日本の学校は軍隊的だと思っていたが、中央高校は子どもの思い出に残るようなことをやっている。子どもが「中央高校でよかった」といった一言で「ここでよかった」と思った。それが大事。歴史も大切にしつつ今後の変化に対応できる新たな取り組みも必要。(いじめの実態把握) ・学校長：いじめに関しては今年度は細かいトラブルはあったが、大きなものはなかったと思う。評価委員：いじめは大なり小なりどこでもあるが、生徒からそれを聞き出せるか、聞いたときにどう対応ができるか、寄り添えるかが大事。評価委員：他校では今年度転退学者が多かった中央はどうか。学校長：本校では全体の2%。(広報・図書館教育・学校保健・人権教育等) ・学校長：広報は次年度に向けた生徒募集もほぼ目標通り。HPも含め次を考えていかなくてはならない。図書館に関しては今年度より司書教諭を採用したことで図書館の環境が少しずつ充実してきている。人権教育に関しても学校と世間のズレを縮めていく必要がある。学校保健に関しては生徒・教職員のケアを促進していくつもりだ。

5. 総合評価

新体制で迎えた1年目だった。パークドームでの体育祭や生徒総会等今までにない試みで保護者、生徒、教職員の協力を得ることがおむねできたと感じる。学習時間の確保及び家庭学習のあり方と経験の少ない先生が増えたため、様々な生徒への対応など、次年度へ向けての課題と考える。生徒の出席率、卒業・進級率、進学・就職率や資格検定合格率は高いレベルで維持できており、改善と向上が進んでいると考えられる。今後もこれらの指導充実に努め、継続していきたい。

6. 次年度への課題・改善策

生徒の目標と自己実現の達成に向けたあらゆる面での支援・指導を行い、生徒一人一人の個性の把握に努め「なりたい自分」を叶えられるような挑戦できる教育環境を整える。学校や生徒の活動がわかりやすいように広報するとともに、生徒・保護者・教職員で作り上げる新たな「熊本中央高校」の基盤を全教職員で協力していきたい。

令和6年度 学校評価(自己評価・関係者評価)について報告します。

令和7年3月26日

学校法人 加寿美学園
熊本中央高等学校
理事長 竹下 英 様

熊本中央高等学校
学校長 塩田 顕一郎

決 裁	理事長	竹下 英	学校長	塩田 顕一郎	教頭	富田 由佳	教頭	福元 聡	事務局長	柴田 徹	事務長	橋本孝一
-----	-----	------	-----	--------	----	-------	----	------	------	------	-----	------